

＜戦争体験ビデオ「草の根の語りべたち」一覧＞（上映時間：1本あたり約15分）

	出演者氏名	戦争体験の概要
①	<p>さとう みどり 佐藤 緑 (日進市)</p> <p>[H13制作]</p>	<p>「学童疎開」－子どもたちと先生（わたし）－</p> <p>新任の女性教員として、学童集団疎開の引率を任される。 疎開先での子ども達の生活、食べ物・物資の調達にまつわる話、病気になる子ども達の世話や米軍機による空襲・銃撃体験など。 転勤してすぐに別の疎開先での引率を任されたが、赴任した日の晩に空襲に遭う。子ども達の顔と名前、避難する防空壕の場所すらわからず不安な夜を過ごした。終戦の日、戦争が終わってうれしくもあり、今後のことが不安でもあり複雑な気持ちだった。</p>
②	<p>おかだ てつ お 岡田 鉄夫 (碧南市)</p> <p>[H13制作]</p>	<p>「脱げない靴下」－シベリア抑留からの帰還－</p> <p>シベリアに抑留。零下30度から40度の酷寒のなかで伐採作業に従事させられる。凍傷により足の指を失う。 4年の捕虜生活の後、昭和24年5月、舞鶴港に上陸、復員する。足の傷跡を隠すため、人前では夏場でも靴下を脱ぐことができない。</p>
③	<p>よだ いさお 依田 功 (東海市)</p> <p>[H13制作]</p>	<p>「不戦の誓（ちかい）」－沈む戦艦武蔵、奇蹟の生還－</p> <p>昭和19年10月、レイテ作戦に参加したが、米軍の攻撃により搭乗艦「戦艦武蔵」が沈没。漂流中を救出された。負傷のためマニラの病院に入院。その後内地送還となるが、帰国の際に乗船した空母も米軍の攻撃を受け、船体が傾いたまま佐世保港に入港する。昭和20年、治癒後に横須賀警備隊に入隊し、終戦となる。</p>
④	<p>ひさき よしこ 久木 好子 (一宮市)</p> <p>[H14制作]</p>	<p>「忘れてはならない8月15日」－少女が見た戦争－</p> <p>昭和20年3月、空襲により自宅付近に焼夷弾が投下された。一人で伯母の家へ避難するように言われ、立ち込める煙の中、泣きながら向った。伯母宅も被災し、稲沢の父の実家へ疎開する。 当時、愛知時計へ学徒動員されたのだが、ある日、焼けた学校の後片付けのため、自分の学年だけ工場を離れた間に工場が爆撃され、多くの先生や先輩が犠牲となってしまった。 8月15日、玉音放送は校舎の焼け跡で聞いた。ラジオの声は途切れ途切れだったが、重要な話であろうことは察しがついた。帰宅すると家中の人は仏壇の前で正座し、ただ茫然としているだけだった。</p>
⑤	<p>こんどう れいこ 近藤 礼子 (江南市)</p> <p>[H14制作]</p>	<p>「小学生だった私の戦争体験」－悲しみの名古屋空襲－</p> <p>昭和20年、千種国民学校3年生の時、3度空襲に遭う。当時、友達は縁故疎開・集団疎開で名古屋を離れていた。自分は自宅が商売をしていたことと母の具合が悪かったため疎開しなかった。学校では避難訓練が頻繁に実施された。空襲避難の際、B29のサーチライトに追われた時は怖かった。空襲被害者の死体は、校庭に集められ茶毘に付された。ひどい臭いだったと記憶している。戦後間もなく父が死に、母子二人の生活が始まったがとても辛かった。</p>

	出演者氏名	戦争体験の概要
⑥	た きょう としき じ 田 境 刻 次 (額田郡幸田町) [H 1 4 制作]	「十八歳召集兵の思い」－予科練志願－ 昭和 20 年、18 歳になった時、召集にて静岡の 25 部隊に入隊し、軍事教育を受ける。新兵は古参兵の鉄拳制裁によりしごかれた。部隊は金沢市へ。移動中に実家に近い「岡崎空襲」の被害状況を聞く。 その後、金沢から富山へ移動し、電話線等の撤収業務に従事。8 月、B 29 大編隊による「富山空襲」に遭遇。軍民とも爆撃の中を逃げた。
⑦	すず き れい こ 鈴 木 令 子 (豊田市) [H 1 4 制作]	「遠かった祖国 日本」－満州からの引揚げ－ 小学 4 年生の夏(昭和 20 年)、ソ連参戦により父と別れ、家族は満州から北朝鮮の平壤に避難する。翌年、栄養失調のため妹が死亡する。内地へ引揚げるため平壤を脱出。野宿をしながら南朝鮮までの 190km を汽車と徒歩で移動した。引揚船に乗ったが、なかなか上陸できず佐世保へ入港してすぐに大腸カタルで衰弱していた下の弟を病院へ連れていくが医薬品が無く、その日のうちに死亡してしまった。 列車で母の実家(現 愛知県岡崎市矢作)へ。翌日、先に帰国していた父と再会する。幼い 2 つの命が戦争の犠牲になってしまった。
⑧	なか ね きょう こ 中 根 京 子 (西加茂郡小原村) [H 1 4 制作]	「終戦前の忘れられない出来事」－日赤の救護看護婦－ 日赤の看護婦として従軍、中国大陸を兵隊とともに転戦した。内地に転属後、富士山麓の大宮陸軍病院に勤務していた。休暇がもらえ友達と帰郷する途中で米軍機の銃撃に遭い足止めされたが、休暇明けの特攻隊員の人達に「病院列車で一緒に」と誘われた。偶然にも知り合いがいて、すぐに打ち解けたが、戦争の話となると、皆一様に「国の為に命を投げ出すぞ」と熱っぽく話していた。別れ際、胸がつかまってしまい、声をかけられず「さようなら」と手を振るのが精一杯だった。
⑨	さ はら しゅう じ 佐 原 庄 治 (豊橋市) [H 1 5 制作]	「私の空襲体験」－豊橋空襲の記憶－ 昭和 20 年 6 月、豊橋大空襲に遭った。その際、当時の豊橋中学校(現在の時習館高校)の北東に軍の防空壕がありそこを目指したが、そこには行けずに近くの畑の防空壕に母と弟二人の 4 人で逃げた。空襲の後、3 日くらいは夜になると豊橋の町がぼーっと赤く光って見えた。
⑩	かく の けい こ 角 野 恵 子 (名古屋市) [H 1 6 制作]	「焼失」－昭和 20 年 3 月 19 日の空襲－ 昭和 20 年 3 月、明倫国民学校 1 年生の時、名古屋空襲にあう。父・母・妹とはぐれ、祖母・弟と名古屋城お堀近くの防空壕に逃げる。市街地中心部が焼失し、一面の焼野原となった。次の日家族全員が無事に揃い、嬉しかったからではなく、皆が泣いているからただ泣いたことを覚えている。

	出演者氏名	戦争体験の概要
⑪	<p>たかぎ なおや 高木直哉</p> <p>(尾張旭市)</p> <p>[H17制作]</p>	<p>「戦争と私の少年時代」－豊川海軍工廠への学徒動員－</p> <p>昭和19年に旧制中学校へ進学したが、6ヶ月後には学徒動員され、豊川海軍工廠で働くことになった。昭和20年8月7日の豊川への空襲によって2,500名以上の犠牲者が出て、その中には、親友も含まれていた。終戦後は食べ物もほとんどなく、母親の分まで食べてしまうことがあったが、今思うと申し訳ないことをしたと反省の念を持っている。</p>